

モンゴル旅行の感想

若山 忠

- 「チンギスハーン」、「かつてユーラシア大陸を席卷した『元』」、「地平線まで広がる草原」、「満天の星空」、そして「蒙古斑」などとぼんやりしたイメージしかなく、旅行先としてのプライオリティが左程高くなかったモンゴル。私にとってはD Fの企画がなければ恐らく実現することのなかった旅行を満喫できたことを感謝したい。ウルジさんの人脈と実行力及び小野寺さん、西沢さんなどモンゴルセンターの皆様の献身的な対応に深謝。
- 多くの旧ソ連留学組が現政財界のエリートそして経済的にはロシアと中国依存が現状のモンゴルに於いて親日派が多いことは極めて心強い。地政学的重要性から日本政府がモンゴルに力を入れていることの他モンゴルを知り尽くした清水大使の様な人物の貢献が大きいのではなからうか。モンゴル商工会議所、モンゴル国会議員面談、清水日本大使面談を通じ本音の話の一端を聞くことが出来た。
- 日本人墓地訪問の際、皆で「うさぎ追いしあの山——」を合唱したが本当に涙がこぼれた。終戦直後ソ連に連行された日本人のうち約15,000人がモンゴルでの強制労働に従事し寒さや飢えで死んでいった人々のことを思うと涙せずにはいられなかった。この墓地が永遠に良好に管理されることを切望。尚、この墓地の他にも北モンゴルのスフバートルにも荒廃した日本人墓地があると聞く。
- 新興国が発展途上で生ずる問題に対する対処が課題
 - ✓都市部の交通渋滞（日本車、特にトヨタ車の多さには驚き）
 - ✓設備不十分（観光地のトイレの汚さが典型的）
 - ✓マナー（ゴミの散らかし、チンギスハーン像テーマパークでのお土産屋やデュウティフリーでの女店員の売る気のない態度など）
 - ✓貧富格差（チャツアルガンプロジェクトの母子、マンホール・チルドレンなど）
- D Fとしてモンゴルに貢献できること
 - ✓アカデミーや理科教育グループを中心にモンゴルで必要とされる教育・啓蒙活動が候補の一つ。
 - ✓モンゴルからの日本留学生への支援活動も候補
 - ✓資金調達をどうするか
- 貴重な経験
 - ✓テレルジ草原での乗馬（次に来る機会があれば馬子に引かれるのではなく真瀬さん、三木さん、西沢さんの様に自分で乗りたいなあ——）
 - ✓シャーマンのお祈りの番が回ってこなかったが興味深かった。「信じる者こそ救われる」、「当たるも八卦、当たらずも八卦」か？
 - ✓モンゴル伝統楽器「馬頭琴」中心オーケストラのヨハンシュトラウスには感動

(以上)